

我が国におけるダム湖水景勝地指定の歴史的考察*

Historical study of designation as a sceanery spots in Japan

竹林征三** 皆川朋子**

By Seizou TAKEBAYASHI, Tomoko MINAGAWA

本研究では、ダム湖における景勝地指定及びその効果を明らかにすることを目的に、景勝地を評価する手法の一つとして古来より用いられている「八景」に着目してダム湖水における指定事例を収集し、分析したものである。その結果、以下の2点が明らかとなった。

- ①古くより人々が自然景勝地を八景として価値を与えたのと同様に人工湖水であるダム湖水も八景として指定されている事例をみることができ、ダム湖が周辺の自然と調和した優れた景勝地を創造してきたことが把握できる。これは日本の文化の中にダム湖水が定着したものと受けとめることができるだろう。
- ②景勝地指定は、一つ一つのダム湖水景観に価値を与える。そして重要な観光資源となり、これを題材とした版画や歌の製作、歌碑の建立等、八景巡りの遊覧船などが生まれ、観光地としての湖水名を大きくPRすることとなる。さらに、町名をはじめ各種施設にダム湖水名が名付けられる等、景勝地指定が地域へ与える影響は大変大きいことが把握できる。

1. はじめに

ダム建設はダムという堤体構造物を築造することであるが、その目的はそもそも堤体によって新しく生まれる貯水空間（ダム湖水）をつくることにある。ダムは人類が築造した最大の構造物の一つであるとともに、そのダムによってできる人工の湖水もおそらく人類が作る最も広いオープンスペースの一つであろう。

また、ダム建設に伴い少なくとも片側に1ルートの付換道路が必要になり、橋梁、トンネル、公園が同時に建設される。さらに水没戸数や水没農地の大きいダムにあたっては水源地域対策措置法による水源地域整備計画が策定され、土地改良、治山、治水、道路、簡易水道、林道、共同利用施設、自然公園、スポーツレクリエーション施設、老人福祉等の22メニューの事業が実施される。そのためダム建設はそ

の後の観光、レクリエーション等のダム湖水の利活用や親水性を促し、地域の振興に大きく関与しているといえる。

観光地としてのポテンシャルを決定する要因の一つとしてダム湖水がどのくらい景勝地としての価値を有しているか、またその価値の与え方をあげることができる。

ダム湖水の景勝地としての価値について考えてみると、庭園をはじめ、景勝地の重要な根幹的要素の一つである水面を有していること、またダムの立地条件から山稜に囲まれていること等、山水画と同様「山」「水」「空・雲」の3要素が存在し、日本人の心の中にある自然観と合致する風景を呈しており、優れた景観を呈す場合が多い。このようなダム湖水の景勝地としての評価は自然公園等や八景等の指定に見ることができる。

このようなことから景勝地指定及びその効果を歴史的にみていくことは、今後ダムやその他の土木構造物の建設後の地域振興を図る上においてひとつの示唆を与えるものと思われる。

*Keywords: ダム湖水、景勝地、歴史

**正会員 建設省土木研究所 環境部
(〒305 茨城県つくば市旭1番地)

そこで本研究では、ダム湖における景勝地指定として「八景」に着目し、その指定事例を収集し、分析するものとする。

2. ダム湖における八景指定

八景指定は中国湖南省洞庭湖の南にある瀟水と湘水の二水が交わる付近の八ヶ所の佳景を「瀟湘八景」と呼んだことにはじまる。わが国においても八景指定は景勝地を評価する一手法として用いられており、室町時代、関白近衛政家がこの中国の八景を完全に模し琵琶湖の南湖に「近江八景」を選定した（明応9年、1500）のがはじめてである（表-1）。

「近江八景」は庶民に広く普及した。これは安藤広重の近江八景版画によるものが大きく、天保5年（1834）から安政4年（1857）まで24種類もの版画が出版されたと言われている。当時、葛飾北斎の「富嶽三十六景」と安藤広重の「東海道五十三次」の風景画版が庶民の間で名所旅行案内記として全国的な広がりを見せている時であった。しかし、戦後急速に面影を消していく「近江八景」に代わって、昭和25年（1959）に琵琶湖が国立公園に指定されたのを機に琵琶湖全域を対象として「琵琶湖八景」が選定された。中国の「瀟湘八景」の形式を模したものには「近江八景」の他に、明の心越禅師による横浜の金沢八景や甲斐八景等がある（表-2）。

ダム湖において八景を指定した事例について収集した結果を表-3に示す。ダム湖における八景指定は、

①湖周の景勝地を指定

②ダム湖を含む周辺地域の八景の一つに指定の2つに大きく分類される。

①の事例の最初のものは大井ダムであり、戦後においては相模ダム、鴨川ダムがある。さらに江戸時代に築堤された土堰堤による溜池まで遡ると南湖における事例がある。②の事例には瑠璃溪ダムがある。

以下にそれぞれの事例のダム湖の八景指定の歴史、その後の波及効果について記述する。

（1）湖周景勝地の八景指定事例

a) 恵那峡八景（岐阜県恵那市）

木曽川水系大井ダム湖は恵那峡と呼ばれる美しい渓谷地にあり、1922年から3年の年月をかけて1924年に竣工した発電を目的としたダムであり、貯水量2940万 m^3 、湖面積141haを持つ。木曽川は恵那峡の他、寝覚の床、落水峠、蘇水峡、日本ラインなど数多くの景勝地を有している河川である。

ダムが建設される前の木曽川は流れも速く険しい峡谷であったが、ダムが完成すると、険しい峡谷も半ば水没し、変わって現在のダム湖水が出現し、両岸に露出した白い花崗岩が水面に映し出され、優れ

表-1 瀟湘八景及び近江八景

瀟湘八景	近江八景
平沙の落雁	堅田の落雁
遠浦の帰帆	矢橋の帰帆
山市の晴嵐	栗津の晴嵐
江天の暮雪	比良の暮雪
洞庭の秋月	石山の秋月
瀟湘の夜雨	唐崎の夜雨
煙寺の晩鐘	三井の晩鐘
漁村の夕照	瀬田の夕照

表-2 金沢八景及び甲斐八景

金沢八景	甲斐八景
平潟の落雁	夢山の春曙
乙姫の帰帆	石和の流螢
州崎の晴嵐	富士の晴嵐
内川の暮雪	金峰の暮雪
瀬戸の秋月	龍華の秋月
小泉の夜雨	酒折の夜雨
称名の晩鐘	恵林寺の晩鐘
野島の夕照	白嶺の夕照

表-3 ダム湖における八景指定

指定の方法	名称	ダム名	竣工年	河川名	湛水面積(ha)
湖周景勝地の指定	南湖十七景十六勝	南湖	1801		16.2
〇〇湖△景	恵那峡八景	大井ダム	1924	木曽川	141
△勝	相模湖八景	相模ダム	1947	相模川	258
	東条湖八景	鴨川ダム	1951	鴨川	56
景勝地の一つに指定	瑠璃溪十二勝	瑠璃溪ダム	1942	桂川	
〇〇△△景					
〇〇△△勝					

た景観が創出された(写真-1)。

「恵那峡八景」は花崗岩石の露出した風景、ダム湖に架かる橋梁やダムの堰堤が主対象となる風景等が「瀟湘八景」と同様なスタイルで選定されている。

- | | |
|-------|-------|
| ①獅子落雁 | ⑤船場晴嵐 |
| ②美恵帰帆 | ⑥空龍夜嵐 |
| ③傘岩春風 | ⑦堰堤晩鐘 |
| ④屏風暮雪 | ⑧紅岩夕照 |

この「恵那峡八景」は、風景を詠んだ詩とともに各々の景の版画が作られており、当時この版画が恵那峡を大きくPRしたと推察される(図-1)。またダム建設は、険しかった峡谷へのアクセスを容易にしたものと推察される。

1954年恵那峡は胞山県立自然公園として指定されることとなり、兩岸の花崗岩めぐりを行う遊覧船を中心とした観光地となっている。



写真-1 恵那峡

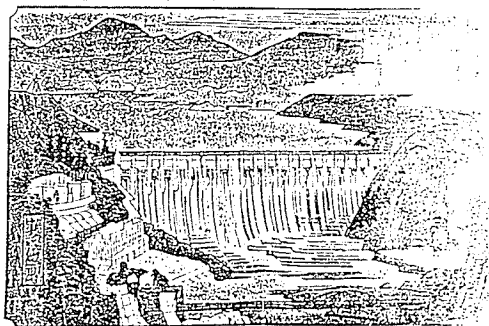


図-1 恵那峡版画「堰堤晩鐘」

b) 相模湖八景(神奈川県津久井郡相模湖町)

相模湖は神奈川県が昭和15年から8年の年月をかけて昭和22年に竣工させた堤高55mの多目的ダムである相模ダムによって生まれた貯水量6320万 m^3 、湖面積258haの周辺約12kmのダム湖水である。

「相模湖八景」を以下に示す(図-2)。

- | | |
|---------|------|
| ①与湖神社 | ⑤嵐山 |
| ②御供岩 | ⑥尾房山 |
| ③勝瀬橋 | ⑦石老山 |
| ④青田天狗坊洲 | ⑧弁天島 |

なお、「相模湖八景」指定はいつ、誰がどのような判断基準で決めたかは明らかにできなかった。

「相模湖八景」はある特定の光景をとえている「瀟湘八景」のスタイルでなく場所だけを指定しており、恵那峡のような特筆すべき景観資源は有していないためか、歴史的な神社や伝説を持つ岩等が選定されている。

相模湖八景がもたらした効果は、ダム建設により相模湖ができ、その湖周の八景が指定された後、町名をはじめ多くの各種施設に相模湖の名が付けられたことである。以下にその事例を列挙する。

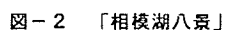
- ①町名：相模湖町(昭和30年1月)、与瀬町、小原町、千本吉村、内郷村が合併
- ②郵便局：相模湖郵便局
- ③電報電話局：相模湖電報電話局
- ④J R中央本線駅名：相模湖駅(昭和31年)
- ⑤中央自動車道 I. C. 名：相模湖インター(昭和43年12月)
：相模湖東出口(昭和43年12月)
- ⑥橋梁名：相模湖大橋
- ⑦県立自然公園名：練馬相模湖自然公園(昭和58年12月16日)
- ⑧公園名：相模湖公園(昭和33年10月30日)
：相模湖自然公園ふるさとの森(昭和57年)
：相模湖ピクニックランド(昭和48年)
：相模湖電気科学館
- ⑨レジャー施設名：相模湖ちぎらテニスクラブ(昭

- ・相模湖ピクニックランドテニスクラブ（昭和55年5月）
- ・相模湖テニスクラブ（昭和44年）
- ・相模湖休養村キャンプ場（昭和56年）
- ・相模湖ボーリング場（昭和47年）

⑮その他：相模湖焼（昭和39年）

東条湖八景を以下に示す（図-3）。

- ①水天宮 ⑤御所ヶ峽
②不動岩 ⑥鞍馬峽
③妹背岩 ⑦鷺の巣窟
④屏風岩 ⑧逢萊峽 (写真-2)



東条湖の湖岸は露出した岩が多いため、「東条湖八景」にも岩や峡谷が中心に選定されている。相模湖同様「瀟湘八景」のスタイルはとられていない。

東条湖においても、湖上遊覧船による湖上八景巡りが湖上観光の目玉となり、観光地としての名を広め、相模湖同様多く施設に東条湖の名が付けられている。

- ①協会：東条湖観光組合
- ②県立自然公園名：清水・東条湖県立自然公園（昭和32年4月）
- ③温泉名：東条湖温泉
- ④観光：東条湖遊覧白鳥号
- ⑤公園名：東条湖ランド
- ⑥キャンプ場：モビレージ東条湖
- ⑦ゴルフ場：東条湖カントリークラブ
：レークスカントリークラブ
- ⑧ホテル：グリーンプラザ東条湖
：東条湖観光ホテル
- ⑨水族館：東条湖水族館（その後アクア東条）

1957年東条湖は清水東条湖県立公園として指定されることとなった。

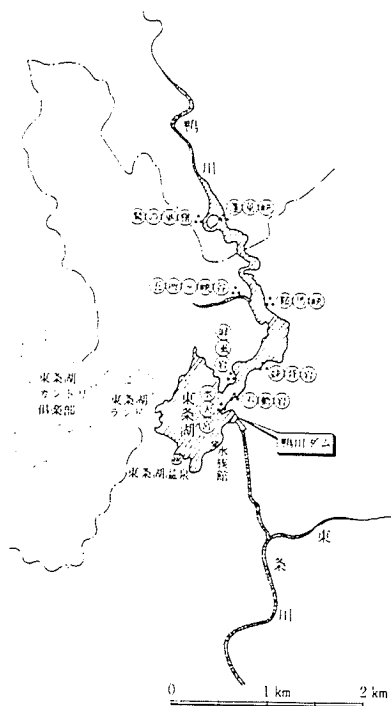


図-3 「東条湖八景」

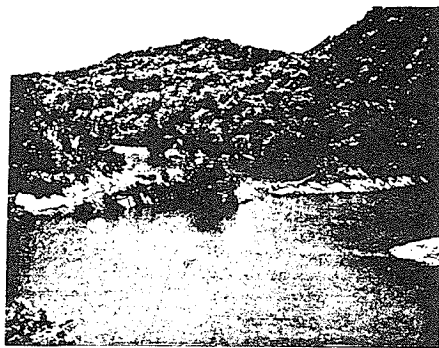


写真-2 「東条湖八景」の一つ「達英峡」

d) 南湖十七景十六勝（福島県白河市）

南湖は白川城主松平定信が築造した公園と農業用水目的の東西約690m、南北約390m、面積約16.2haの小さな人工湖水である。この地はもともと葦、茅が生い茂り、大沼とよばれていたところで、那須山中を水源とする阿武隈川の支川谷津田川によって開析された低湿地である。白河藩主松平定信公が寛政改革を実施して老中職を引退した後、享和元年(1801年)に大沼を浚渫し、低湿地が挟まる東側の部分築堤の大工事をして造ったのがこの南湖である（写真-3）。

南湖の名称は、白川駅の北約500mにある白河城とも称される小峰城の南に位置する湖沼であることと、唐の詩人李太白（李白）が洞庭湖に遊んだ時に詠んだ詩の一節「南湖秋水夜無煙」に因んで松平定信が洞庭湖の別名「南湖」を借用して名付けられたものである。

定信公は南湖を庭園として設計した。その築堤技法は遠くは西方の那須の連山、および近くは南東方の関山を借景とした池沼式庭園で、鏡の山、月待山、小鹿山の小高い丘陵の懷に抱かれ、湖水には島を造り湖畔には松を植え、大和の吉野桜、京洛西の嵐山の楓類を遠くより取り寄せて植林し、野には松虫・鈴虫を放し、湖水には魚を放流した。また、鏡山には茶室「共楽亭」を建て、広庶民に開放し、さらには湖面においては藩士の水泳や操舟訓練のために使用したという。

定信が造園した庭園は江戸築地の俗恩園や小峰城内の三郭四園など五庭園があるが、南湖は現存する唯一のものである。また、多くの大名庭園が城内や

庭内に築かれているのに対してまさに四民共楽のための庭園であり近代庭園の先駆けをなすものとして高く評価されている。

定信は南湖の築堤と庭園の造営が終ると、公園内に17景16勝を選定し、文人による17景は詩歌及び歌碑の建立、また16勝は漢詩の詠吟を行った(図-4)。

- | | | |
|--------|---------|---------|
| ① 関の湖 | ⑦ 常盤清水 | ⑬ 千世の堤 |
| ② 共楽亭 | ⑧ 松風の里 | ⑭ 小鹿山 |
| ③ 鏡の山 | ⑨ 月待山 | ⑮ 有明崎 |
| ④ 真萩が浦 | ⑩ 月見浦 | ⑯ 八聲村 |
| ⑤ 錦の岡 | ⑪ 下根の嶋 | ⑰ 千代の松原 |
| ⑥ 松虫の原 | ⑫ みかげの山 | |

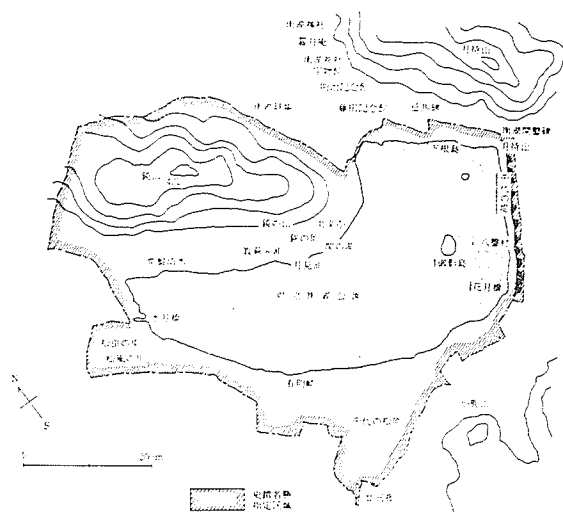


図-4 史跡および名勝、県立南湖公園及び十七景十六勝



写真-3 南湖

南湖十七景十六勝は近江八景より300年ほど遅れているが、近江八景は瀟湘八景と全く同じスタイルで「秋月」「暮雪」「落雁」等といった光景の表題をそっくり借用しているのに引き換え、定信はそれらにはとらわれず景勝地も8ヶ所にこだわらず独自の選定法と命名法をとっている。定信のなみなみならぬ高雅で洗練された文化的な知識と、風景に気韻を求め命名や歌に深い地域愛の心情を吐露余韻を求める姿勢が浮かび上がってくる。定信による南湖は建設から十七勝十六勝選定、石碑の建立、碑文記載までの中に「叙景文化」の極みを感じられる。この時代の景勝地指定は近江八景と同様、当時の権力者によりその指定がなされ、文化的な背景とその人物の偉才によりなされたものと位置づけられる。

現在、南湖は湖を中心とする区域777haが福島県立公園に指定されている(昭和23年指定)。また、南湖を含む南湖公園は大正8年4月10日法律第44号として成立した「史蹟名勝天然記念物保存法」旧法第1条により大正13年12月9日告示第777号で第一類史蹟および名勝として指定されている。ダム湖が国の重要な文化財として史蹟名勝に指定されているものは南湖のみである。

(2) 周辺地域の八景の一つにダム湖を指定した事例

a) 瑠璃溪十二勝の一つの通天湖(京都府船井郡)

通天湖は、湖水面積1ha以下の小さな湖水である。

瑠璃溪は明治38年に時の船井郡長である三宅武彦氏と西本梅村植生小学校長である竹内源太郎氏が当時「滑溪」と呼ばれていた溪谷の美しさにうたれ、これを改め「瑠璃溪」と命名した。

この命名後一層有名になり多くの知名士が来遊することとなり、この古生層の粘板岩、硬砂岩および花崗岩がつくる約2Kmの間の寄岩、巨岩が並びその中を幅10mほどの清流が岩盤上をはしり、また玉すだれのような滝となりあるいは静寂な深淵をおりなしている。この溪谷美の十二勝を三宅氏、西本氏の他、園部小学校初代校長上野盤山氏や清浦奎堂氏、生駒勝山氏および櫻井桂村の計6名で指定・命名した。(写真-4、5)

- | | |
|-------|-------|
| ① 鳴瀑 | ⑦ 双龍淵 |
| ② 掃雲峰 | ⑧ 爛柯石 |
| ③ 錦繡巖 | ⑨ 玉走盤 |
| ④ 座禪石 | ⑩ 水晶簾 |
| ⑤ 蟬蛻泉 | ⑪ 会仙巖 |
| ⑥ 渴蚪澗 | ⑫ 通天湖 |



写真-4 「瑠璃峽十二勝」の一つ「通天湖」



写真-5 「瑠璃峽十二勝」の一つ「玉走盤」

通天湖は当初十二勝の一つの「通天階」と命名されていたものを、その後昭和17年にできたダム湖「通天湖」と置き換えたものであり、これは新しくできた人工のダム湖が大自然が長い年月をかけてようやく作り出した天然渓谷にとけ込んだものと受けとめられるだろう。

このようにダム湖が小さい場合には、このように周辺の渓谷美等と組み合わせて「〇景」「〇勝」の一つに位置づける方法が有効な手法である。近年、瑠璃溪の入口、大川内複から瑠璃溪十二勝の清流を

探歩し、通天湖に至り、さらに奥瑠璃溪、こぶし荘ファミリー牧場を経由して大阪、兵庫、京都の県境の最高峰深山の360度の展望を楽しむ、四季折々の大自然の景趣をそえる徒歩14km、5時間半の瑠璃溪・深山ハイキングコースが整備されることとなった。

4. まとめ

以上、ダム湖における八景指定事例として、①湖周の景勝地を指定及び②ダム湖を含む周辺地域の八景の一つに指定について示した。

これらより、以下の2点について整理する。

(1) ダム湖の景勝地指定

古くより人々が自然景勝地を八景として価値を与えたのと同様に人工湖水であるダム湖水も八景として指定されている事例をみることができ、ダム湖が周辺の自然と調和した優れた景勝地を創造してきたことが把握できる。これは日本の文化の中にダム湖が定着したものと受けとめることができるだろう。

(2) 景勝地指定の波及効果

景勝地指定は、一つ一つのダム湖水景観に価値を与える。そして重要な観光資源となり、これを題材とした版画や歌、歌碑、八景巡りの遊覧船などが生まれ、観光地としての湖水名を大きくPRすることとなる。さらに、町名をはじめ各種施設にダム湖水名が名付けられる等、景勝地指定が地域へ与える影響は大変大きいことが把握できる。

参考文献

- 1) 竹林征三：ダム・ダム名称考（その19）、ダム日本、No.575、pp.19～29、1992.
- 2) 竹林征三：ダム・ダム名称考（その20）、ダム日本、No.576、pp.19～36、1992.
- 3) 廣瀬利雄・竹林征三編著：ダム・堰と湖水の景観、山海堂、1994.
- 4) 財団法人日本ダム協会：ダム年鑑1994、
- 5) 沢田正治：恵那峡の復活、土曜随想、恵那情報、1980.
- 6) 建設省中部地方建設局：木曾三川流域誌、中部建設協会編集、1992.

- 7)東条湖観光協会発行：水と緑のふるさと、1964.
- 8)東条湖観光協会発行：東条湖、1964.
- 9)白河郷土書 上巻、白河古事考東白川郡沿革誌、
- 10)白河の郷土叢書上巻：白河古事考 東白川郡沿革史、pp29-34.
- 11)駒井重倫（白河藩士）：古聞書南湖紀
- 12)園部町文化協会発行：瑠璃溪、そのべ 第4号、1956.
- 13)園部町文化協会発行：瑠璃溪注文3ヶ条、そのべ第15号、1957.
- 14)園部町文化協会発行：名勝瑠璃溪がこの世にでるまで、そのべ 第25号、1958.